



理科室での授業でタブレット端末を使用する生徒(中川根中学校)

## 町内小中学校の授業で、ICTの活用が始まりました。

町内の4小学校・2中学校では、2学期からICTを活用した授業が本格的に始まりました。始まったばかりの「川根本町モデル」について、その特徴と活用事例を紹介します。

### 「川根本町モデル」のポイント

#### ▶教育委員会、教員、企業体による協議会を設立

実際に授業を行う教員の意見を重視するために、事業を受託した共同企業体3社、教育委員会、教員で組織する「ICT教育推進事業協議会」を設立しました。定期的に意見交換を実施して、より効果的な活用ができるように教材や機器の改善を行います。

#### ▶「ICT支援員」によるサポート体制

「ICT支援員」は、情報教育を専門とし、教員の教材作成や授業におけるICT機器の活用をサポートするスタッフです。川根本町では、3名の支援員が週5日間、6校を巡回して学習効果を高める役割を果たしています。

#### ▶県内最高水準のICT環境を整備

##### ▷通信環境:6校の全エリアにWi-Fi環境を整備

6校において、普通教室だけでなく、特別教室や体育館、グラウンドも含めた校内すべての場所で高速通信回線が利用できます。これにより、さまざまな教科や実習で、ICTの活用が可能になりました。

##### ▷導入機器:現場での使いやすさを考慮した機器を導入

1人1台のタブレット端末を各校に配備し、タッチパネル式の電子黒板やノートを電子黒板へ映す書画カメラを普通教室へ設置しました。

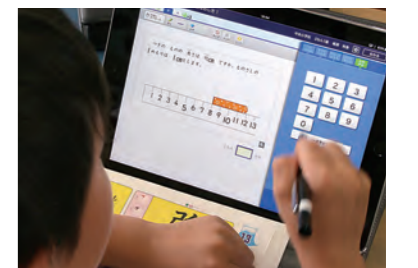
##### ▷使用教材:児童生徒の学ぶ意欲を湧かせる教材を採用

教科指導用ソフトとして、児童生徒の画面共有・意見集計機能やゲーム感覚で単元の復習ができるドリル機能などを持つ「ミライシード」を採用しました。また、教員の教材製作ツールとして、クラウド(インターネット空間)で利用できるシステム「川根シード」を開発しました。



▲タブレット端末

◀書画カメラ



▲復習用のドリル機能

### 実践事例「小学校算数」

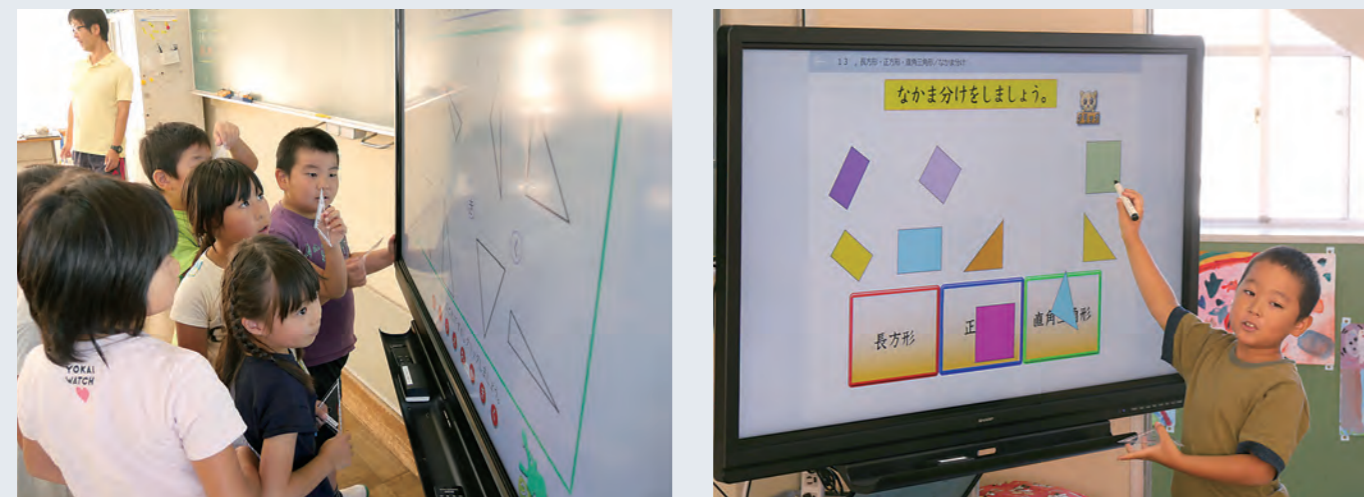
#### ◎中川根南部小2年「図形(正方形・長方形と直角三角形)」

電子黒板のタッチパネル機能を積極的に活用しました。

授業冒頭では、教員がそれぞれの図形の特徴を紹介しました。画面上の図形をアニメーションで動かしながら説明すると、児童たちは集中した様子で聞いていました。

続いて、複数の図形の中から直角三角形を見つける問題では、児童らは実際に電子黒板に表示された三角形に三角定規を当てながら探しました。また、図形の分類問題では、児童が電子黒板に表示された図形を、タッチペンで移動させて仲間分けをしました。

視認性が高く直感的に操作できる電子黒板が、授業の理解度向上に役立っています。

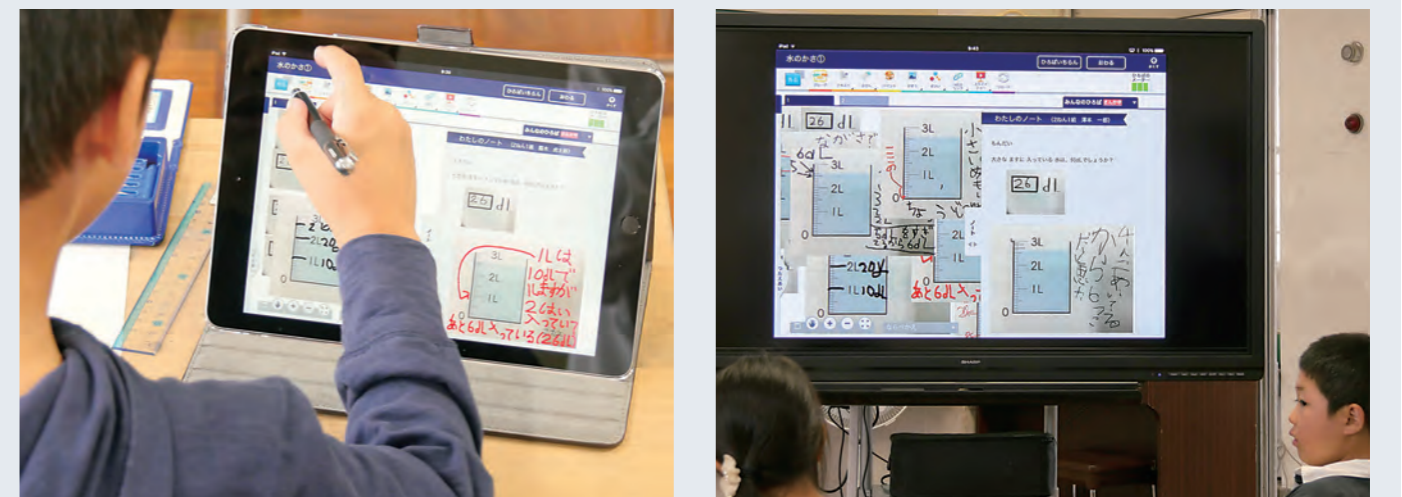


#### ◎中央小2年「水のかさ」

児童が使用するタブレット端末の画面を、各端末や電子黒板へ共有表示する機能を活用しました。はじめに、教員が児童の使用端末へ問題を提示すると、児童は自分の回答とその理由をタッチペンを使って端末の画面へ書き込みました。

端末に書き込んだ回答は他の児童の端末や電子黒板へ表示することができ、プリントの配布や回収の時間が削減され、授業時間を有効に活用できます。また、即時に他の児童の考えを知ることができるため、児童同士の活発な議論を促し、主体的な学びへとつながることが期待できます。

意見発表では、発表する児童が電子黒板に表示された自分の端末画面を使いながら、答えに至るまでの考え方を他の児童に分かりやすく伝えようとする姿が見られました。



Math × ICT